

1. 調査の目的

この調査は、市民と行政が一体となったまちづくりを推進するにあたり、市民の皆様の貴重なご意見やご要望をお聞きし、豊橋市のまちづくりに反映させることを目的として実施しています。

2. 調査の設計

- (1)調査地域：豊橋市全域
- (2)調査対象：市内在住の満15歳以上の方(日本国籍)
- (3)標本数：5,000人
- (4)抽出方法：住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- (5)調査方法：調査票を郵送。郵送またはWebにより回答。
- (6)調査期間：令和8年6月16日(火)～7月15日(水)

3. 調査項目

- (1)豊橋市に対する愛着度と自慢度について
- (2)豊橋市の「暮らしやすさ」について
- (3)市民協働によるまちづくりについて
- (4)男女の平等感について
- (5)多文化共生について
- (6)「SDGs(持続可能な開発目標)」について
- (7)中心市街地の活性化について
- (8)豊橋市役所の窓口について
- (9)防災対策について
- (10)感震ブレーカーについて
- (11)お住まいの地震対策について
- (12)自転車の安全な利用について
- (13)「緑」と「公園」について
- (14)汐川干潟(しおかわひがた)について
- (15)環境問題について
- (16)運動やスポーツについて
- (17)ひきこもりへの認識について
- (18)看護専門学校について
- (19)豊橋新城スマートインターチェンジ(IC)について
- (20)動物の愛護及び管理の取り組みについて
- (21)地域の生活環境について
- (22)あなたご自身について

4. 調査機関

公益社団法人 東三河地域研究センター

5. 回収結果

- (1) 回収数 : 2,794 人(内 紙回答 1,503 人 Web 回答 1,291 人)
- (2) 有効標本回収数 : 2,792 人(全問無回答及び属性のみ回答の標本は無効とする。)
- (3) 有効標本回収率 : 55.8%

6. 報告書の見方

- (1) 各設問における無回答者については集計対象としません。
- (2) 各設問の冒頭に示す「n=〇〇」の数値は、当該設問の有効回答者数（その設問に対する未回答者を除く）です。単数回答を依頼した設問の合計は各選択肢の人数の合計となりますが、複数回答を依頼した設問では各選択肢を少なくとも1つ以上を選択した人数の合計となります。
- (3) 各設問の年代別の内訳を示すグラフでは、「全体」と「各年代の合計」は必ずしも一致しません。その理由は、「全体」に年齢を回答していない人を含むためです。
- (4) 集計結果は小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位までとして表示します。このため、比率の合計は単数回答を依頼した設問であっても 100%にならないことがあります。また、複数回答を依頼した設問では、集計結果の合計が 100%を超えることがあります。
- (5) 回答比率は、その設問の有効回答者数を母数として算出します。
- (6) 本文中の設問や選択肢について、長い文は簡略化している場合があります（原文は巻末参照）。

7. 標本誤差の範囲の設定

本来、アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果を得なければなりません。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要であり、その精度は標本誤差を算出することで把握できます。

標本誤差とは、ある設問の回答割合に対する誤差を示しており、これは以下の式で表すことができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団

n : 有効回答数

p : 結果の比率

k : 信頼度による定数

σ : 標本誤差

※ k は信頼度を決めると自動的に決まる定数で、信頼度は統計的な慣習として 95%とすることが多く、信頼度 95%ならば k は 1.96 となります。

令和8年度の市民意識調査の回答結果について、回答者全体の標本誤差の範囲を設定すると、次表のようになります。この表の見方は、例えば、今回の市民意識調査において、ある設問を単純集計した場合、その設問で「A」という回答が全体の50%であったとすれば、市民意識調査の全母集団（市内在住の満15歳以上の方（日本国籍））に同じ設問をしても、統計学的には95%の確率で「A」は $50 \pm 1.85\%$ の範囲内となります。標本の大きさは、p（結果の比率）が50%の場合が最も安全に（最も大きく）なるため、市民意識調査の全体の回答結果が最も分散していた場合でも、全母集団から得られる結果と比べて、 $\pm 1.85\%$ 以下の誤差しか生じないことになり、精度の高い結果といえます。ただし、年代別等では、それぞれの有効回答数は少なくなるため、結果については標本誤差の範囲が広くなることを考慮して見る必要があります。

表 令和8年度市民意識調査における標本誤差の範囲

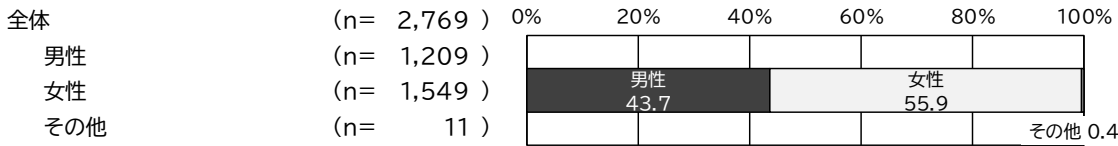
n \ p	90%または10%程度	80%または20%程度	70%または30%程度	60%または40%程度	50%程度
2,792	± 1.11	± 1.48	± 1.69	± 1.81	± 1.85
1,500	± 1.51	± 2.02	± 2.31	± 2.47	± 2.52
1,000	± 1.86	± 2.48	± 2.84	± 3.03	± 3.09
500	± 2.63	± 3.50	± 4.01	± 4.29	± 4.38
300	± 3.39	± 4.52	± 5.18	± 5.54	± 5.66
100	± 5.88	± 7.84	± 8.98	± 9.60	± 9.80
20	± 13.15	± 17.53	± 20.08	± 21.47	± 21.91

※母集団は令和8年4月1日現在の豊橋市 15 歳以上人口（外国人を除く）：299,696 人

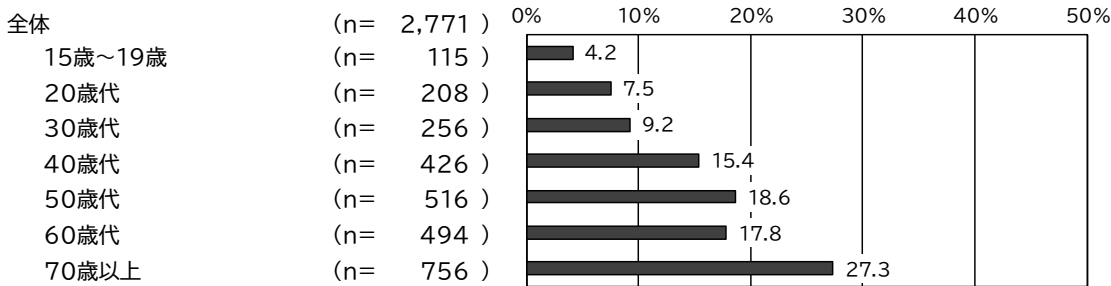
引用： <https://www.city.toyohashi.lg.jp/45346.htm>

8. 回答者の属性

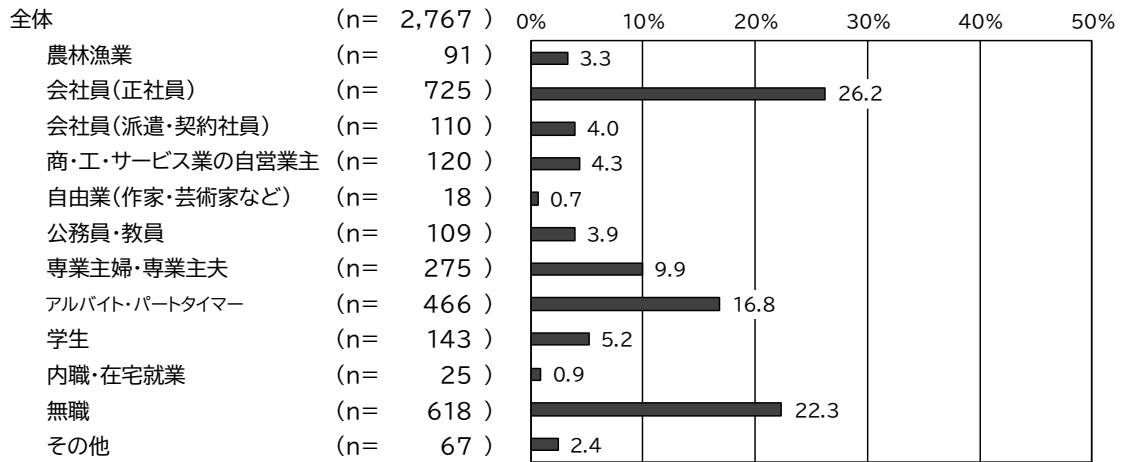
(1)性別



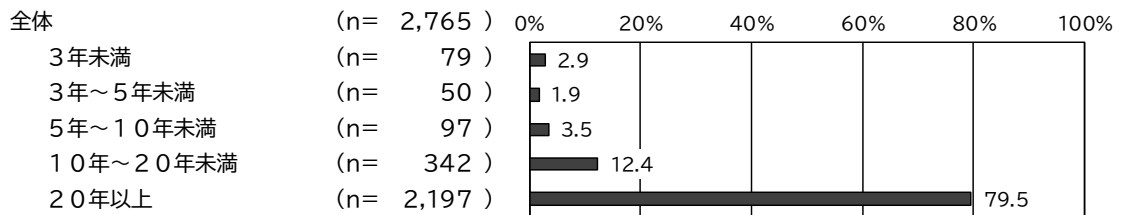
(2)年齢



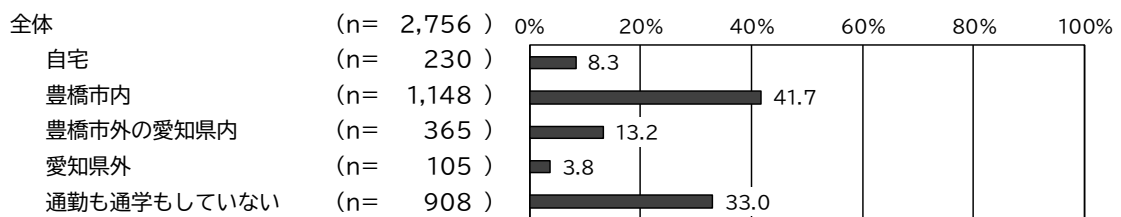
(3)職業



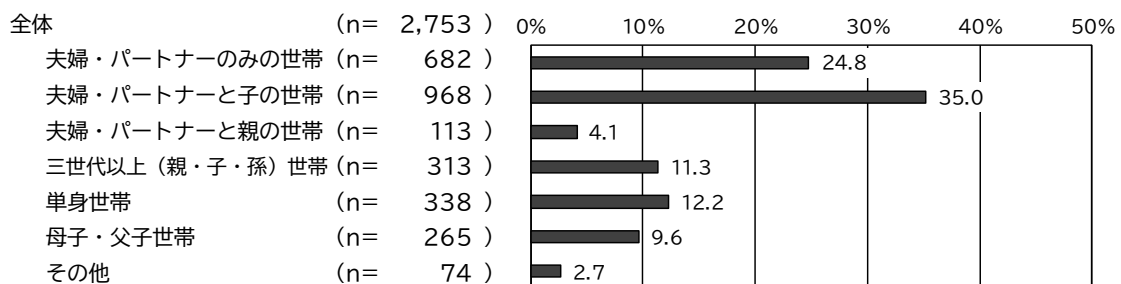
(4)居住年数



(5)就学地(通学地)



(6)家族構成



(7)居住小学校区

No.	校区	回答数	割合
1	岩田	91	3.5%
2	豊	43	1.7%
3	東田	56	2.2%
4	八町	32	1.2%
5	松葉	48	1.9%
6	花田	60	2.3%
7	松山	42	1.6%
8	新川	40	1.6%
9	羽根井	62	2.4%
10	下地	37	1.4%
11	大村	20	0.8%
12	津田	33	1.3%
13	牟呂	81	3.1%
14	汐田	53	2.1%
15	吉田方	100	3.9%
16	高師	81	3.1%
17	幸	107	4.2%
18	芦原	48	1.9%
19	福岡	85	3.3%
20	中野	41	1.6%
21	磯辺	69	2.7%
22	大崎	27	1.0%
23	野依	36	1.4%
24	植田	42	1.6%
25	牛川	56	2.2%
26	鷹丘	83	3.2%

No.	校区	回答数	割合
27	下条	32	1.2%
28	多米	77	3.0%
29	岩西	43	1.7%
30	飯村	75	2.9%
31	つつじが丘	65	2.5%
32	旭	35	1.4%
33	栄	96	3.7%
34	天伯	35	1.4%
35	大清水	42	1.6%
36	富士見	55	2.1%
37	向山	48	1.9%
38	前芝	24	0.9%
39	西郷	29	1.1%
40	玉川	34	1.3%
41	嵩山	24	0.9%
42	石巻	33	1.3%
43	谷川	25	1.0%
44	小沢	27	1.0%
45	細谷	24	0.9%
46	二川	60	2.3%
47	二川南	66	2.6%
48	豊南・高根	64	2.5%
49	老津	23	0.9%
50	杉山	32	1.2%
51	賀茂	33	1.3%
合計(有効回答数)		2,574	100.0%